

友輪

発行所 横浜市中区元町4丁目83番地 郵政番号223-8515
 大山祇命神示教会神祇本部 編集
 電話 045-731-5373
 ©大山祇命神示教会 2018

精神世界に目を向け

真理に根差す生活へ

毎日、さまざまなきことが起こります。心配なことも多い世の中です。しかし、政治、経済をはじめ、問題が山積した社会であつても、自然の世界は何ら変わることもなく回っています。一日も欠かす日が昇れば、季節も移り変わっていきます。それが時代の力です。社会は、運命実体が重なり合ひ、時にぶつかり合ひながら、調和を保たれています。その中で、真理に根差した生き方をしていくことが大切です。

運命実体で回るのが、この世の仕組みです。ところが、科学、技術が発達しても、そうした真理を知らない人が多いのも現実です。それが今よりや、人知を超えた大きな力の中で生かされている事実が、自己利益に気付き、自己利益ばかり求めてはいけません。道徳にかなう生き方が必要と悟れる人が

時代の姿が大きく変わろうとする今、信者が家族で「教え」を学び、「真理」に生きる家庭をつくるのが必要。人は運命に重なる「人生」を歩んでゆける。「生きがい」を手にし、喜び多い人生を歩む人の心が、ここにある。

命のある今は、楽しい時代と。生きることは楽しいもの、神は言われます。命のある今は、自分に与えられた貴重な時です。ところが、現実の社会は逆で、多くの人の心に映るのは夢のない将来の姿と、神は言われます。夢が薄いの、人のために生きようとする思いが欠けているからです。人生は、それぞれ限られた中で与えられている楽しい時、それは、誰にも人の役に立つものがあってもいいです。それを生かせる生きがいになり、人生は楽しくなります。

命ある今を「生きる」—— 引き出せる人となつてゆく。心に映るものは、互いの心が「生きる」。今を生かせる人の心に、見せるものは、夢なき将来の姿。精神世界の真実を知らず、真理なき知識を、絶対と頼る人の心に、日々楽しく「生きる」心は、芽吹かない。信者に申す。「教え」を学び、人物との出会いを、生かせる人を目指せよ。学ぶほど、心は安定し、人物の心を、素直に受け止める。世の流れに乗って生きる。信者であれ。

出会いは上手に生かせる自分になるように、神は呼び掛けられました。出会いを生かすには、奉仕心が必要です。せつなく縁のあった人や物の心を大切に、生かそうとする心遣いと実行。互いの存在、運命を認め、受け入れ、生かそうとする奉仕心が、自分自身を磨き、高めめます。だからこそ、教えを学ぶのです。教えが身に付くほど、心は安定します。そして、どのような人の心も、さまざまなもの心も、素直に受け止めて、生かそうとする心遣い、生かしてゆくようになります。

物事を単純化、流れに乗って。世の中には、時代の流れがあつて、自然とあるべき方向に進んでいきます。ですから、焦らなくてもよいのです。希望の光が通つていけば、時は経てその体験が絶対的に生きてきます。神に守られた人生に、何一つ無駄はありません。しかし、肝心の基本的な知識が分らない、作爲、人工で物事を図るうとしがちな現代です。ですから、知識が絡

沿って判断しながら生き進み、発展するのは、技術、科学であつて、精神世界は何も変わりません。そうした真理の通る環境で生きてゆける、仕合せが広がります。単純化した考え方こそ、時代の流れに乗って生きるコツなのです。

親子でつながる心の道

真実の愛が良い因を

親子であつても、運命実体は人それぞれ。人生は運命実体で操られていく真実を踏まえ、家族で支え合ひ、磨き合える環境が大切です。

現代は、あまりにも知識、情報が多く、何が大切なかを見失ひがちです。そのとき、頼るものが見聞違え、人生の選択を誤つては、大変なことになるります。ですから、家庭の中に神の教えを取り入れることが大切です。一人一人が教えを学び、物事の判断基準に教えをしつかりと握れるのです。子供も青年期を迎えるとき、意思の疎通が難しいという家庭も多いもの

運命に重なる人生に

教えを学んで実践へ

宮崎信者勉強会

全国に三十三カ所まで広がった偉光会館。この後、大分、旭川、また宮崎、帯広、沖縄と、整備計画が進んでいます。その中で、六月十七日には教主正使者偉光先生が宮崎まで出向かれ、偉光会館の建設に向けて勉強会を行つてくださいました。人は誰も、神から運命を授けられてい

「人生」を悔いなきものへと導くものは何か、分かつていようか。運命の力を身に付けてゆく。神示「人生」に寄り添う。我が子が神の手の中「道」の真理に生きてゆく。親と子は、共に「心の道」を歩み、共に別れを迎え、縁を深めてゆくもの。

神魂に思いを届けて

開運に向けて前進

光寿信者参拝時



感謝の心がさらに自分の成長に

一月に一年の課題を学び、五月に自分自身を見詰め直して、九月二十三日からの光寿信者参拝時に成果を神様に報告。そうした一年一年を繰り返していきながら、毎年らせん階段を上るかのようになり、人生は上向いていきます。

光寿信者参拝時には、一年のご守護の御札と御祈願書をもって神魂にお届けしましょう。また、その思いを神魂につなぐ愛の儀が、神祇本部真実の光会館で行われ

家族の心を重ね合う

魂が安らぐ家庭にと

人生、生まれる時も、閉じる時も、誰もが一人です。しかし、一人で生き抜いていくことはできません。さまざまな人と支え合つて生きていく必要です。その根底となるのが、家庭です。

一人一人が神から世に与えられた役割を授けられ、生まれてきています。家族であつても、その運命は異なります。家族それぞれが運命を磨き合つて、神の道を守り、心の中、心を強固なものにして、開運に向けて、今年も着実に前進です。

神示「家族の心が重なるほど、一人一人の人生は、大きく守られ、仕合せの輪が、広がってゆく。互いを思い、心をつなぐ家庭に、奉仕に生きる人を育てる。人は、「真理」に格り得るほど、多くの出会いが、生かされるのである。六つの花びら咲き誇る。家庭となつてゆく。

学んで実体の修正を

理性的に生きる心に

偉光会館があることに、神示「守護の中、誰か社会に役立つ運命を持つていても、そこに修む実体がさまざまに修正が着実に図られていく。その修正が、その現実をより力強く進め、修正してゆく。その修正が、その現実をより力強く進め、修正してゆく。その修正が、その現実をより力強く進め、修正してゆく。

神示「この地は、真実なき知識に心振り回され、実体に泣く人が多い。信者を目標とする。努力が実り、情けも生かされる。心の中に、努力が実り、情けも生かされる。心の中に、努力が実り、情けも生かされる。心の中に、努力が実り、情けも生かされる。

神示「この地は、真実なき知識に心振り回され、実体に泣く人が多い。信者を目標とする。努力が実り、情けも生かされる。心の中に、努力が実り、情けも生かされる。心の中に、努力が実り、情けも生かされる。心の中に、努力が実り、情けも生かされる。

は、学ぶから実践に移し、実体を修正して正道を歩む思いもますます強くなります。そのために望まれるのが、神魂が宿る偉光会館の存在です。神魂が根付くほど、その地は実体が大きく引き上げられます。そして、より多くの人が救われていくこと、この日の勉強会に寄せ、神は宮崎の信者にこのように表されました。

神示「運命」の真実について教える。神と出会っている。この地に「神魂」が根付くよう。信者は「教え」を学び、「運命」が導く人生を歩む。神に求めるとき、多くの人が救われてゆく。知識を超えた力の存在。それが神の操る運命の力である。信者に申す。「教え」を学び、「真理」に格り得て、救われる人を育ててゆく。

神示「この地は、真実なき知識に心振り回され、実体に泣く人が多い。信者を目標とする。努力が実り、情けも生かされる。心の中に、努力が実り、情けも生かされる。心の中に、努力が実り、情けも生かされる。心の中に、努力が実り、情けも生かされる。

神示「この地は、真実なき知識に心振り回され、実体に泣く人が多い。信者を目標とする。努力が実り、情けも生かされる。心の中に、努力が実り、情けも生かされる。心の中に、努力が実り、情けも生かされる。心の中に、努力が実り、情けも生かされる。

神示「この地は、真実なき知識に心振り回され、実体に泣く人が多い。信者を目標とする。努力が実り、情けも生かされる。心の中に、努力が実り、情けも生かされる。心の中に、努力が実り、情けも生かされる。心の中に、努力が実り、情けも生かされる。

道を守って光を通す 心の救いは果てなく

人生は、目の前の問題解決に追われると、一難去つてまた一難となりがちです。しかし、神の教で生活して、あるべき自分の目標が見えて、何かあっても人生の糧と受け止められます。そこに、環境の変化にもまれることなく、ぶれない心で乗り越えていきます。神の時代の今は、自ら教を生き生きと、深い神の愛に重なり、悔いのない人生を歩み抜くことが求められています。

愛を受け継ぎ

家族との絆が

夫と心が擦れ違い、日常的にケンカを繰り返していた女性は、どんな学んでも心が癒れませんでした。そんな時、かつて友だちで学んだことを思い出した。夫に「お前が学んだことを思い出して、お前が学んだことを思い出して」と語りかけた。夫は「お前が学んだことを思い出して、お前が学んだことを思い出して」と語りかけた。夫は「お前が学んだことを思い出して、お前が学んだことを思い出して」と語りかけた。

神魂の時代の奇跡

教えを支えに

生きる誓いを

神魂の時代の救いは、どのような問題も神の教で冷静に判断し、気付いたことを祈願で実践することによって、確実に心を成長させていくことで、調和を基とした考え方で、的を射た努力すれば、必ず結果は付いてきます。



思いを受け継ぐ三世代の笑顔が

家族に残した 大往生の人生

昨年八月、医師から余命二ヶ月の宣告を受けていた七十八歳の男性が、今年五月、家族にみとられて安らかな最期を迎えました。この九月月間は、完全燃焼した故人の人生の集大成となり、代神、直使の時代から、救世愛に燃えて奉仕の人生を歩み、仕事でも多くの人々に慕われてきた故人が、最後にわびたかったのが妻でした。「家庭を顧みず、寂しい思いをさせて」と、病床で語る妻。妻は温かく受け止めてきました。神魂に出会えた人生は至一と、その生き方を最後まで貫いた夫が何を家族に残したかったのか、深い愛の心が伝わっていたからです。

長年疎遠にしていた姉に電話をする、駆け付けてくれました。家族や身内の支えが、自分の心を安定させ、生き抜く力になったのです。その後の検査結果が良く、手術を受けることもなく、医師が驚く回復ぶりでした。今

毎日のさまざまな選択は、教の中にあるべき方向をつかみ、そこに向けて努力することが大切です。その結果、より高い人生へと心が引き上げられていきます。



安らぎに満ちた終焉の儀式

自分が変わり 家族も変わる

家族とは、誰よりも深く分り合える存在でありたいものです。しかし、素直にならず、つい求める気持ちが強くなることもあるでしょう。

二十代の娘と顔を合わせればけんかばかりだった母親は、勉強会で気付いたことを実行に移しました。娘の言葉に、「理」「そうじゃないでしょ」といつも否定的な言葉を発していたのを、「どうした」「よく分かるよ」と肯定的な言い方に変えたのです。すると、親子の会話も弾み、互いの良さが見えるようになりました。

神総本部に宿泊施設が 滞在時間を有効活用

お泊まり処

神総本部に愛光会館お泊まり処が開館。「心の直使」の地で、一晩泊まるに泊まるなんて夢のよう。五月のオープン前から注目を集め、予約の受け付けが始まると、次々と申し込みが。早速、各地から訪れる人たちのくるるの場になりました。



神総本部で充実の時を

清掃からも気付きが 心を磨く教会の環境

神総本部は、五月から近畿地域の有志が友和会館や信光会館などの清掃に当たっています。とても丁寧な掃除がされていて驚いた。きれいな環境を保持するには、見えない努力があるんですね。参加者は、普段とは違う、教会の環境に触れ、心を込めて取り組む中で、多くの気づきを得ています。



一人一人が真心込めて

お泊まり処、宿泊処で安心感に包まれてゆったりと過ごして、神総本部での滞在がますます充実したものと実感しています。お泊まり処、宿泊処で安心感に包まれてゆったりと過ごして、神総本部での滞在がますます充実したものと実感しています。

心のかけ橋

大切にした 娘と過ごす時間

京都府 高田由紀 我が家には、中学一年生と小学五年生の娘がいます。ある日、長女が「お母さん、神様ってほんとにいますか。毎日楽しくて心が弾むし、みんなに優しく、みんなを助けてくれる。毎日楽しくて心が弾むし、みんなに優しく、みんなを助けてくれる。」と語りかけた。私は、涙を流しながら「私も、私も」と答えた。

感謝が増した 歴史探訪バック

山形県 佐藤正子 神示教会歴史探訪バックで、夫婦で参加しました。初日は、教会史の展示を見学。職員の話も聞けました。自分たちが信じてきたことが、こんなに素晴らしいのだと、改めて思いました。

笑顔忘れずに 真摯な接客を

横浜市 田中恭子 デパート内のスタッフとしてシフト勤務している私は、笑顔です。お客様さまには、温かい言葉をかけ、気持ちよく帰ってほしいと願っています。苦情を言われることもありますが、祈願すると落ちついて対応できるのがありがたいです。相手の気持ちに寄りかかったら、親の方が教えられると思います。

高の夫婦として仲良く歩んでいこうと、あらためて心に誓っています。高の夫婦として仲良く歩んでいこうと、あらためて心に誓っています。

共感する会話で 楽しい交流が

静岡県 青島志郎 八十四歳になり、昨年からテニスに通っています。特別に意識しなくても、自然と人の話に引き込まれるのが、何となく、大いにおもしろい。相手の話を聞きながら、自分も話せる。共感すること、どの方にも必ず良さがある。それを愛するだけで、話も弾みます。食事は、配膳が素晴らしいです。

「先週見えたかったけど、元気だった」と声を掛けてもらって、ありがたい限りです。特別に意識しなくても、自然と人の話に引き込まれるのが、何となく、大いにおもしろい。相手の話を聞きながら、自分も話せる。共感すること、どの方にも必ず良さがある。それを愛するだけで、話も弾みます。食事は、配膳が素晴らしいです。

所したら清掃をするのが夢だった」と、毎日参加している人も。みんなが笑顔で取り組む姿に、参加者も増えています。月に一回、草取りを行っている岩手では、「いつもお世話になって、感謝の気持ちで」と、真心込めて作業。参加者同士で声を掛け、「いろいろな人と触れられて楽しい」と喜びの声が届いています。

自分の良さが芽吹き始める 15歳の門出

神宝祭

輝く未来を目指す思いを神に届けて
新たな心で歩みだしましょう

集合形式の儀式
神総本部では
清明会館 8月12日(日) 10:00~15:00 1時間ごと
偉光会館では
夏休みの8月を中心に実施 詳細は偉光会館でご案内
家族と共に関心ある節目の儀式へ

ご予約制
お申し込み、ご質問は、
神総本部儀式窓口、
または偉光会館へ

福寿の集い

明魂登録者と家族が対象

生涯を神魂と歩むことを誓う「明魂」誓願。神魂との絆を年々深め、家族へと受け継いでいるように、教主正使者 供丸光先生が神示を基にご指導くださいます。

8月5日(日) 10:00
神総本部 偉光会館(中継)

該当の方にはご案内状を送付
ご質問は神総本部儀式窓口 偉光会館へ

ぜひご家族で誘い合わせてご出席ください

編集後記
教に生きるということが、大切なことでしょうか。それは、道を守って生きていくことで、神魂の守護の中、心が安定し、運命に導かれた人生が歩めるからです。教を軸に生きていけば、世の流れにのまれることもありません。そうしたい心は、開運につながるのです。